

# 井上通信

No.16

今年の6月22日(土)に東京都で開催された社内木鶏全国大会へ中四国地方代表として当社が参加いたしました。社内木鶏会は、10年前より取り組んでおり、社員全員の木鶏会に対する熱意が醸成された中で満を持しての代表選出でした。全国大会では、各地区代表の3社と競うこととなります。会社紹介VTR、社員代表と社長との成功事例発表、社員によるエール発表の3つを各社が行い、その内容を観客が評価し、最終的に感動大賞が決定します。結果としては、当社は感動大賞を逃しましたが、各自がベストを尽くし、目標に向かって一丸となった頑張った経験を得ることが出来ました。社員にとっては、練習に熱心に取り組んできた分だけ悔しい思いもあります。その思いを今後の挑戦の原動力としてまいります。

## 金折取締役の一言

今年の夏は、観測史上最も暑くなった昨年に匹敵する暑さとなっています。この中で、当社関連会社の井上ワイナリーの葡萄は、順調に育っています。今年の夏は、お盆前から9月中旬まで県内各圃場で葡萄の収穫をおこない、野市のワイナリーで順次醸造を始めていきます。葡萄の栽培は、各地域の方々の協力、思いのもと出来上がっています。その葡萄を井上ワイナリー、井上石灰工業で繋ぎ、来年皆様に喜んでいただけるワインを、お届けできるよう頑張ります。

中症には十分気をつけて、一番暑い夏にしてほしいです。今年は特に暑い日が続いています。今読んでいただいている皆様もどうぞ暑さには十分ご注意ください！

ちなみに高知県では、8月9日から12日にかけてよきこい祭りが開催され暑い夏が繰り広げられます。会社としての参加はしていませんが、個人でよきこいを踊る方は数人います。熱



## 井上のお石灰な話

## 土佐石灰の歴史 編

石灰の製法が土佐に伝わったのは、1800年代のこと。そこから、高品質な石灰の焼き方の研究などが進み、石灰の活用方法の多様化に拍車をかけました。もとは、建築の材料として使用されることが多かったのですが、肥料や硝子製造、晒粉原料、ゴム製造、消毒など使用用途がどんどん広がっていきました。こうして日本全国で土佐石灰が使用されるようになることで、需要が増加し、土佐石灰産出量も増えることとなりました。こうして土佐石灰が活況の時代を迎えるのですが、この活況の時代を支えたのは、高知の石灰会社が集まって創立した「組合」の存在です。組合があることで石灰の売り手の地盤が強固なものとなり供給体制が整いました。



8月から高知で4回目の仕込みが始まります！  
ぶどうの収穫は開花から約100日頃とされますが、当社では「糖」「酸」「YAN」を分析して収穫日を決めています。糖は酵母の力でエタノールになり、酸味は味の調和と健全性を保つために重要であり、YANは酵母の栄養となる資化性窒素分です。この3つはトレードオフの関係であり、また年の気象により異なるため分析して収穫日を絞り込んでいきます。そして香りの前区物質のピークも品種により完熟前、完熟後で異なるため収穫日の決定はその年のワインに大きく影響する重要な選択の一つです。今年もブドウ中心の生活が始まりますがワイン造りをしっかりと楽しみたいと思います。

土佐の方言紹介  
「いっちきちち もんちきちち」  
いっちきちちが「いってくる」、もんちきちちが「戻ってくる」という意味。つまり、行ってきて戻ってくることを示します。高知の中でも西部で使われる幡多弁という方言のひとつですが、最近では使われる機会が少ない方言でもあります。言葉は移り変わるものですが、少し寂しいですね。

薩摩と長州(い)ちきちちもんちきちち、忙しいちや...



井上ワイナリー だより